

# 静岡市環境大学2019 講座報告 14日目

## 演題：深海魚ミズウオから学ぶ海洋環境の問題

東海大学海洋学部博物館 学芸員 伊藤 芳英

場所：東海大学海洋学部博物館

時間：10：45～15：00



## 講義のポイント

### 要点1：海洋プラスチックごみ問題

- 海洋にプラスチックが流れ出ると分解されるまでに400年以上かかる。このままではいずれ海洋中の魚の数よりプラスチックごみのほうが多くなってしまふ
- 魚の中にはプラごみをエサと誤認して食べることがあり、その魚を食べる人間の食生活にも影響を及ぼす可能性がある

### 要点2：ミズウオの解剖

- ミズウオの解剖実験は長年実施しているが、平均して半数以上はプラスチックごみが胃から出てきている
- 今回の解剖でも小さなプラスチック片が1つ発見された

### 要点3：海岸のマイクロプラスチック

- 三保の海岸で砂を容器にすくい入れ、水を入れ混ぜることで5mm以下の大きさのプラスチック（マイクロプラスチック）を確認した。もともと海中にあるものなので、魚がプランクトンと一緒に摂取している可能性が高い
- 海を守ることは自分たちの未来の食を守ることに繋がるため、全員で取り組まなければならない課題である

## 受講生の感想

- ◆自分の生活や命を守るために、環境について学び行動すると改めて感じた。今回学んだことを忘れないように、またこの博物館に来たいです。
- ◆解剖等した事がなかったので、とてもいい経験となった。
- ◆熱心な講義でよく理解できました。